



「あなのやくわり」で説明文を書く

～八重瀬町立白川小学校 大城奈美江教諭～



後期研究員二人目の検証授業は、八重瀬町立白川小学校 大城奈美江教諭で、1月17日(水)に同校2年生で国語の授業を行いました。

研究内容は、小学校国語2年生の説明文の学習で、「あなのやくわり」という子どもたちの興味・関心を引く教材を活用し、「読む」とことと「書く」ことを関連させた活動を経て主体的に読みを深める学習を目指しています。そのために一人学びを充実させ、一人一人の課題を解決するための学習計画を立て、最終的に単元のゴールである自分で見つけた「あな」についての「オリジナル説明文」を書くことを目標としています。

ゴールに向かって単元の始めから「ことば通帳」で語彙を増やし、並行読書でキーワードや自分の課題を見つけさせたり、「振り返り」のための文章の型を練習させたりと、ゴールに向けて様々な準備をしてきました。

本検証授業では、これまで学習したキーワードを振り返り、担任の文章構成を参考にしながらそれぞれの文章構成を考える作業に取り組みました。子どもたちは穴のある場所や数、その役割等をワークシートに書き込み、振り返りでは「友達の意見を通して意外な穴の役割に気づくことができた」と、学習の深まりを感じさせる感想が多く見られました。

授業研究会では、指導講師の玉城きみ子先生から「主体的、対話的で深い学びのあり方」や「問いのある授業を生み出す」「一人学びの大切さ」等多くの指導助言をいただきました。

奈美江先生の明るいキャラクターと担任と児童の深い信頼関係により、張り切って学習に臨む頼もしい子どもたちの姿が見られ、他の研究員にも学びの多い授業となりました。

<研究テーマ>

児童が主体的に読みを深める学習指導の工夫

～説明的な文章における書く活動と対話的活動を通して～

<研究仮説>

- ①「読む」とことと「書く」ことを関連づけた学習活動を工夫し、児童が読み深めたことを基にして説明文を書くことで、主体的に読みを深めるであろう。
- ②対話的活動を取り入れ互いの考えを共有することで、考えを広げ主体的に読みを深めることができるであろう。



一人一人に寄り添う指導が随所に見られる



担任の文章構成を参考にメモを書く



教室中に効果的な掲示物が

検証授業を終えて(大城奈美江教諭)

今日の検証授業では、時間を気にしすぎて慌てている様子がうかがえたということで、内容の精選、実態把握などのタイムマネジメントが今後の課題として残りました。今回の授業では、読み取ったことを書くことにつなげるための大切な橋渡しの時間として、文章構成を書くことに取り組みました。その際、筆者の工夫として、「説明するために大事な言葉(キーワード)の工夫」を取り入れ、とっておきの言葉を意識することに重点をおき、文章構成を書かせました。子ども達なりに「言葉」にこだわり書くことができたのではないかと思います。また、ペアでの対話を通して、互いの「キーワード」のよさや更なる工夫をアドバイスとして伝え、考えを広げ、深めることも短い時間の中ではありましたが、できたのではないかと思います。この文章構成を活かし、子ども達一人一人がそれぞれの表現で説明文を書き、「オリジナル説明文」を仕上げられるよう、次時の授業でも筆者の工夫「接続詞や文末表現の工夫」を活かし「書くこと」につなげていきたいと思っています。

